

山形・梅野木前1遺跡

1 所在地 山形市梅野木前

2 調査期間 二〇〇六年(平18)一〇月～十二月

3 発掘機関 山形市教育委員会

4 調査担当者 須藤英之・國井修

5 遺跡の種類 集落跡

6 遺跡の年代 古墳時代前期～中世

7 遺跡及び木簡出土遺構の概要

梅野木前1遺跡は、古墳時代前期から中世にかけての複合遺跡である。山形市内を流れる馬見ヶ崎川が形成した扇状地の扇端部付近



(山形)

の微高地に立地し、標高は一〇五mを測る。大規模店舗建設に伴い、発掘調査を実施した。

木簡は、竪穴住居SI三七の覆土中より一点出土した。共伴する須恵器の年代観より、八世紀末～九世紀中葉のものと考えられる。

8 木簡の釈文・内容

(1) ・「東方青龍王

南方赤龍王 西方白龍王
下天黃龍王

「
□□□□□□
[カ]天

」(天地逆)
281×40×3 081

報告書では二点としたが、刊行後に保存処理を実施したところ、接合が判明した。上下両端は斜めに削る。円盤状の材を短冊状に割って木簡に転用したものか。樹種はスギ。欠損する左上部には、「北方黒龍王」と書かれていた可能性がある。表裏の関係は不明。釈読にあたっては、山形大学文学部の三上喜孝氏、東北芸術工科大学の荒木志伸氏のご教示を得た。

9 関係文献

(株)しまむら・山形市教育委員会『梅野木前1遺跡発掘調査報告書』(山形県山形市埋蔵文化財調査報告書二八、二〇〇七年)

(須藤英之)

